

街中の立地にもかかわらず園庭、園舎が広く全てにおいて風通しの良さを感じる園。理念や理想が明確で、自身を向上させなければいけない気分させてくれる。芸術士である私の存在を、園を挙げて受け入れてくれようとする姿勢が随所に感じられる。今年度、園には週一回、午前中4歳児、午後5歳児、各2時間ずつ、主に共同制作活動の先生というスタイルで関わっている。題材は主に担任の先生に提案してもらい、私は制作の過程で子どもたちから出てきたものを作品に展開していく手法を提案、完成につなげている。当初その関わり方が芸術士活動としてどうだろう?という不安があった。しかし、制作活動の中で育んだ信頼関係は、確実に深まり、子どもや担任の先生を通じて父母の方が理解を示してくれているのが嬉しい限り。担任の先生方の協力は絶大で、週一回の訪問では足りない部分を細やかな心配りとフォローで埋めてもらっている。芸術士活動を通して、絵を描く事に対する興味が子ども一人ひとりの自己表現力を深める手段となる様、心から願っている。



夢の街

街を制作した子どもたちの中で、絵が描きたいと言う子ども8名による自由制作。紙の色選びから始め、ほとんど私は口出しすることなく完成。印象に残ったのは、こちらが何も言わなくてもみんなでテーマ+紙の色を相談し、決まったら迷うことなくすごいスピードで描き進めていったこと。紙が足りず継ぎ足す際、ある女の子が「ここに動物園が描きたい!」と横に継ぎ足そうとした私を制したこと…。絵は力キ型になった。子どもの発想は向く自由なんだろう!!クレヨンで塗りつぶし、色をきちんと塗り込むことがみんな当たり前になっていく。街を制作、その際に経験したことや考えたことは確実に彼らの身についていて、この作品に反映されている。こうして作品を作り上げる過程で得たものが、子どもたちのあらゆる自信につながるよう願っている。



前年度 5歳児

この街を作った子どもたちは、芸術士活動のスタートから関わった。週一回ということだったし、こちらがまだ初めてでどう関わってよいのか分からず、最初は子どもたちと一緒に一日を過ごすことから始めた。毎回私より子どものほうが何でも出来るんだ!!という新鮮な感動と驚き!2カ月ほど経った頃、白いロール紙(80cm×2.5m)に6名ずつのグループに分かれ、それぞれテーマを考え、クレヨンで描くことを提案した。制作活動開始。想像以上の出来栄でこちらの声掛け次第で子どもの作品はどんどん変化すると実感できた。



あじさい 5歳児

折り紙であじさいづくりをテーマにスタート。みんな折り紙で花を折ることに夢中になり、すごい数が出来たので、それを生かした作品作りになった。2~3人のグループになり花を配置、絵の具で表情を加味。どんな雰囲気と存在感のある作品になっていった。葉っぱはあじさいに負けないよう、子どもたちなりに存在感のあるものに仕上がったようで、クレヨンの色が楽しい。子どもが作ったものにも関わらず、重厚感が全面に感じられる。更に、虫を描いて貼り付けてみると、思わず笑みがこぼれるような素敵な作品に仕上がった。



虫の行進

あじさいを制作した際、最後に制作した虫があまりにも素敵だったので、それだけを描いた作品づくりを提案、実現した。子どもたちの想像の世界は無敵で、平和で、彼らはそれをかたちにしてできることを教えてくれた。



あじさい 4歳児

絵の具の混色とハサミの使い方を中心にみんなであじさいづくり。最初は戸惑っている子が多かったが、やり始めると、3原色で広がる色の世界にみんな夢中。2回目の葉っぱの色づくりは、こちらがあまり説明しなくてもできるようになっていた。切ることはほとんど担任にお願いした。切った花と葉っぱをみんなでレイアウトしながら貼り付け作業。花1枚ずつののりをつけ、台紙まで貼り込んでもまだのりづけの繰り返し。途中集まって全体に声掛けしてはまた作業の繰り返し。みんな半分遊び感覚で一生懸命、観ていてほほえましく、圧倒される。2時間が子どもたちにとって私も私にとってアツという間、透み感のある作品に仕上がった。